

音楽で 子どもと 生活や社会が つながる

授業で学んだ音楽は、
学校の中だけにとどまらず、
自分の人生や社会にもつながっていきます。

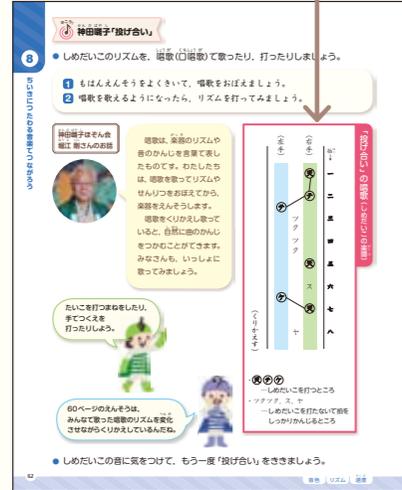
新しい「小学生の音楽」では
我が国や郷土に伝わる音楽文化を
未来へ受け継いでいけるように、
音楽との出会い方を工夫しました。

我が国や郷土の文化を受け継ごうとする気持ちが育ちます

次世代の音楽文化の担い手である子どもたちを育成するという観点においても、音楽科の教科書の果たす役割は大きいと考えています。子どもたちが地域の祭りや音楽に親しみを感じながら、興味・関心をもてるように、音楽が生活の中に根付いている様子の分かる写真や、郷土の音楽を身近に感じられるような活動を取り入れました。

体験型の鑑賞学習で親しみをもつ

お囃子の太鼓のパートを口唱歌で歌ったり、声の出し方をまねしながら民謡を歌ったりする活動を通して、子どもたちがその音楽に親しみをもてるように工夫しました。



3年 p.62



4年 p.26・27

実際に歌ってみる活動を通して

調べ学習で興味・関心を育てる

社会科や総合的な学習の時間との連携を図りやすいように、調べる際の観点や方法を示しました。



4年 p.28・29

インタビューの例

子どもたちが活躍している様子を伝える写真

郷土の祭りや芸能を紹介する際、子どもたちが参加している写真を掲載し、小学生が興味・関心をもてるように配慮しました。



2年 p.11



3年 p.63

SDGsにつながる視点

郷土の芸能や音楽への興味・関心を育てながら、諸外国の文化の大切さや多様性についても理解できるように工夫しています。

6年



わたしたちが受けつくとおり 郷土芸能

長浜曳山まつりの子ども歌舞伎 (滋賀県長浜市)

江戸時代から伝わる、子どもたちが演じる歌舞伎です。はなやかな曳山(山車)につくられた舞台で上演します。

5年



わたしたちが受けつくとおり 郷土芸能

佐八の羯鼓踊 (三重県伊勢市)

古くからこの地域に伝わるおどりで、'かんこ'とよばれる太鼓を打ちながらおどります。

1年



わたしたちがうけつくとおり や おんがく

おてご舞 (新潟県魚川市)

「おてごまい」というおまつりで、4にんのごどもたちがゆったりとまいます。

4年



わたしたちが受けつくとおり 郷土芸能

請戸の田植踊 (福島県双葉郡浪江町)

東日本大震災で被害を受けた、浪江町に伝わるおどりで、震災後も続けられ、ちいきの人たちの心をつないでいます。

2年



わたしたちがうけつくとおり や 音楽

徳島市阿波おどり (徳島県徳島市)

「れん」というグループごとに、にぎやかな音楽にあわせておどります。

3年



わたしたちが受けつくとおり や 音楽

長崎くんち (長崎県長崎市)

子どもたちが、かねたいこをえんそうして、船を動かす人たちをもち上げます。

音楽で子どもと生活や社会がつながる

音や音楽と生活や社会との関わりを考える力が育ちます①

音楽科で学んだことを自分の人生や社会に生かすことができるように、身の回りで見つけた音を音楽づくりの学習と関連付ける活動を取り入れたり、音や音楽にまつわる内容のコラムを設けたりして、子どもたちが音や音楽に対してもった興味・関心と、音楽科の学習がつながるように工夫しました。

生活の中の音、自然の音など身の回りの音の面白さに気付く

身の回りにあるいろいろな音を見つけ、その音を使って即興的に音遊びをする活動を通して、音そのものの面白さにも気付くことができるように学習の手立ても示しました。



1年 p.30・31

1年生は、学校の中で聞こえる音を通して

2年生は、生活の中で聞こえる音を通して



2年 p.28

音の働きや役割を考える

身の回りにはいろいろな音があふれています。それらの音がどのような役割をもっているのか、みんなで話し合ってみよう。



6年 p.75

SDGsにつながる視点
音の視点から、目標11「住み続けられるまちづくりを」の2に示された、障害者や高齢者などのニーズに配慮し、交通の安全性改善により、全ての人々が安全に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供するという内容を考える機会をつくります。

音楽と生活や社会との関わりを見つめ直す

歌ったり演奏したりする活動が、人と人をつないでいることを考えるきっかけとなる写真やコラムを設けました。



2年 p.11



6年 p.47

音楽の背景を想像したり実感したりすることができる

踊りの音楽の鑑賞教材では、地元の人たちが知り合いの誕生日を祝って踊っている様子が分かる写真を掲載しました。

1 お年寄りに、合唱の歌声を届ける活動を通して、世代を超えて交流している子どもたちの様子

2 音楽を演奏している人と、それを聴いている観客が一体となって盛り上がるステージの様子

3 大きな災害がきっかけで生まれた歌が、被災した人たちに勇気付けていることを紹介するコラム

音や音楽と生活や社会との関わりを考える力が育ちます②

防災・復興との関わり

音楽の存在が、自分自身や周囲の人々を勇気付けたり、地域の人々をつなぐ絆となったりしていることを写真やコラムで紹介しています。

仙台フィルハーモニー管弦楽団
バイオリン奏者
神谷未穂さんのお話



5年 p.22・23

2011年の東日本大震災のとき、わたしは宮城県仙台市内でオーケストラの練習に参加していました。震災直後は生活が大変で、それまで毎日ふれていたバイオリンをケースから出せたのは5日後のことでした。楽器をひくと、まるで血がふつふつわくような感覚になり、地震に負けない気持ちが起こったのを覚えています。

そして、「音楽で何ができるのか」となやみながらも、被災地に仲間と音楽をとどけることを決意し、毎日のように演奏しました。多くの人と出会う中で、音楽には人を安心させ、いやす力があるとあらためて感じました。みなさんと音楽でいっしょになったとき、人と人を結ぶ「つながり」を強く感じます。音楽はみんなを一つにし、元気にしてくれます。

わたしたちが受けつぐ 郷土芸能



請戸の田植踊
(福島県双葉郡浪江町)

東日本大震災で被害を受けた、浪江町に伝わるおどりです。震災後も続けられ、ちいさな人たちの心をつないでいます。

4年裏表紙

復興と希望の歌



「しあわせ運べるように」は、兵庫県神戸市の小学校で音楽の先生をしている白井 貴さんがつくりました。

1995年に起こった阪神淡路大震災がきっかけになって生まれた歌「しあわせ運べるように」を歌う小学生。被災した人々を勇気付けたこの歌は、震災を体験していない小学生が防災の大切さを考える場などで、今なお歌いつがれています。また、外国語に訳されて海外でも歌われています。

6年 p.47

6年 p.63 「あすという日が」

2011年3月の東日本大震災の直後、仙台市内の避難所で中学生によって歌われる様子がニュースで報じられたことをきっかけに、復興を願う歌、生きることのすばらしさをうたえる歌として広く歌われるようになった曲です。

すばら し い {あす とう ひが あるかざり
あす とう ひが くるかざり

オリンピック・パラリンピックやスポーツとの関わり

視覚に障害のある人となない人が力を合わせてプレーする「ブラインドサッカー」や「音の出るメダル」のコラムなどを通して、「音」や「声」の働きや役割について考えられるように配慮しました。

特集 音の働きや役割について考えよう

みなさんは、「ブラインドサッカー」というスポーツを知っていますか。「フットサル(5人制サッカー)」をもとにして生まれた競技で、ゴールキーパー以外の選手は目が見えない選手です。ブラインドサッカーは、視覚に障害のある人となない人が力を合わせてプレーする競技であるため、「音」と「声」によるコミュニケーションがとても重要です。



ゴールキーパー以外の選手は、アイマスクをしてプレーします。
提供：日本ブラインドサッカー協会



ブラインドサッカーのボールの中には、金属の小さな玉が入った円盤状のケースが入っていて、転がると音が出ます。

ブラインドサッカーの主な特徴

- 1 転がると音が出る特別なボールを使って、プレーする。
- 2 ボールを持った相手に向かって動くときには、「ホイ！」と声を出さなければいけない。
- 3 相手ゴールの裏側には、ガイド(コーラー)とよばれる、選手に声で情報を伝える人がいる。

おうえんする人たちは静かに観戦していて、声を出していいのは、ゴールが決まったときだけなんだよ。



それには、どんな理由があるのかな。みんなて話し合ってみよう。

6年 p.74・75



2016年にブラジルのリオデジャネイロで開かれたパラリンピックのメダルは、ふったときに金、銀、銅のちがいが聞き分けられるように工夫されていました。

音楽をきっかけにして子どもの興味・関心が広がります

音楽は、仕事や生活と結び付いて歌われたり、新しい価値や文化を生み出して人々に感動を与えたりします。小学生にもなじみのあるテーマを取り上げて、音楽をきっかけに教科等を越えた知識が関連付けられたりそれらが広がったりすることができるように特集やコラムを設けました。

表現するときに大切なこと

フィギュアスケートを通して、勇気と感動をあたえてくれる浅田真央さん。たくさんの方の心を引きつける演技と音楽との関係について、お話をうかがいました。

ソチオリンピック (2014年)
ピアノ協奏曲 第2番 (ラフマニノフ 作曲)

フィギュアスケートは昔、リンクに図形をえがく競技でしたが、今は音楽に合わせておどり、技を披露するスポーツです。すべりと技術、音楽と表現が合わさって、フィギュアスケートとなります。

音楽は、なくてはならない存在です。曲を選ぶときは、まず自分がすべるところを想像しながら音楽をききます。実際に、ラフマニノフのような力強い曲では、自分の心も強く保つことができ、後半のつかれがなくなる部分でも音楽がパワーをくれます。ふり付けをするときには、音楽の強弱やリズム、歌の歌詞の内容に合わせて動きやすけり方も変えます。未来を意味するときは上を見上げる、感謝を表すときはおじぎをするなど、見て分かるふり付けもあります。表現するときには、動きに加えて自分の気持ちで表現したいことを強く思うことがいちばん大切だと思います。フィギュアスケートならではの動きやすけりにも注目してみてください。

浅田真央

5歳からフィギュアスケートを始める。15歳でグランプリファイナル優勝。2010年バンクーバーオリンピック銀メダル、ソチオリンピック6位入賞。2017年の引退後は、アイスショーなどでフィギュアスケートの魅力を伝えている。

グランプリシリーズ NHK杯 (2015年)
歌劇「蝶々夫人」からある晴れた日に (ブッチャーニ 作曲)

5年 p.2・3

時代をこえて受けつぐ 歌舞伎のこころ

日本だけでなく世界中で漫画、アニメとして人気を集める「ONE PIECE」。歌舞伎俳優の市川猿之助さんは、この作品をもとに歌舞伎をつくり、大成功をおさめました。歌舞伎の伝統を受けつぎつ、未来へ向け新しい挑戦を続ける猿之助さんに、お話をうかがいました。

歌舞伎「義経千本桜」川連法眼館の場
江戸時代につくられた歌舞伎です。「川連法眼館の場」は、猿之助の愛情をえがいた場面です。

鑑賞資料「日本の古典芸能」▶78ページ
「わたしたちが受けつぐ芸能」
〜長瀬山まつり 子供歌舞伎〜 ▶美衣紙

演じるときに大切なこと

わたしは歌舞伎を演じる時、新作でも古典でも形式にとらわれず、登場人物の気持ちを表現することを大切にしています。新作には古典の要素がたくさん入っていますし、古典にも常に今の時代に合った変化が求められます。そこに共通するものは、やはり「気持ち」だと思います。

新しい歌舞伎をつくる

古典を知らずに新しいものをつくることは、とてもきびしい挑戦です。クラシック音楽が今の時代の音楽の「もと」にあるように、歌舞伎でも古典を知らずに新作をつくることはできません。新しいものをつくる時ほど、昔から伝わる素晴らしい部分を取り入れています。

歌舞伎の魅力

歌舞伎は、数百年の時を経て現代に伝わり、今も昔も変わらない人間のさまざまな感情を表現して、人々の心を打ち続けています。音楽、踊り、お芝居が一体となったエンターテイメントである歌舞伎を、みなさんもうぞ楽しんでください。

市川猿之助
1980年に「義経千本桜」の安達参役で初お目見え。1983年に二代目市川猿之助を名のり初舞台。2012年に四代目市川猿之助を襲名。歌舞伎のほか、テレビや映画なども幅広く活躍している。

ルフィ、市川猿之助
スーパー歌舞伎Ⅱ「ワンピース」
2015年につくられた歌舞伎です。主人公のルフィが、仲間たちともいっしょの冒険を果敢とこえていく物語です。豪華な場面や最後に決める主題歌の「FIGHT」は、必ずの光輝にさんがつくりました。

ルフィと仲間たち

6年 p.2・3

我が国に伝わる風習や風景を紹介する写真やコラム

古くから伝わる風習や風景などがうたわれている歌唱共通教材については、歌詞や曲が生まれた背景を紹介し、生活や社会との関わりを捉えやすくしました。



3年「茶つみ」
3年 p.16・17

新茶のお話

春から初夏にかけて、お茶の木は新芽を出します。八十八夜にあたる5月2日のころに、その新しくやわらかい葉をつんで作るお茶は「新茶」とよばれ、人々はむかしから味やかおりを楽しんできました。

お茶をそそいでいる様子

3年「うさぎ」
3年 p.33

十五夜のお話

むかしのごよみて、毎月15日の夜のことを十五夜といいます。秋の十五夜のころの月は、たいへんうつくしいとされています。むかしから、月にうかび上がるもようを、うさぎがもちをついている様子にたとえて、人々はお月見を楽しんできました。

お月見のおそなえ

5年「こいのぼり」
5年 p.14・15



こいのぼりのお話

「こいは魚を登ってりゅうになる」という中国の古い言い伝えがもとになって、五月五日(端午の節句)にこいのぼりを立てる習わしが始まったといわれています。子どもたちが元気に育つように願って、その習わしは今も続いています。

江戸時代には右の絵のように、黒いこいだが立てられていたんだよ。

歌川広重の作品「名所江戸百景 水邊橋河舟」

音楽で子どもと生活や社会がつながる

音楽とのいろいろな関わり方について触れられます

子どもたちの身の回りには、地域のお祭りのときに演奏される音楽もあれば、音楽を仕事にしている専門家たちによって演奏される音楽もあります。鑑賞資料には、地域に根ざして活動しているオーケストラの写真に掲載するなど、子どもたちが将来、どのようなかたちで音楽との関わりをもつかを考える際の選択肢を増やせるように配慮しました。

音楽とのいろいろな関わり方

オーケストラの鑑賞教材のページでは、地元の高校生とプロのオーケストラと一緒に演奏している様子を紹介しました。

また、巻末では、吹奏楽を紹介する写真として、消防音楽隊が活動している様子を掲載しました。



5年 p.26・27



5年 p.79

鑑賞資料（地域に根ざしたオーケストラの写真の例）

- 3年 p.48・49 金管楽器の紹介 大阪フィルハーモニー交響楽団
- 4年 p.52・53 木管楽器の紹介 広島交響楽団
- 5年 p.22・23 弦楽器の紹介 仙台フィルハーモニー管弦楽団
- 6年 p.76 オーケストラの楽器紹介 神奈川フィルハーモニー管弦楽団